消防庁長官賞

広げよう！防火の輪
～将来の保育者と予防広報～

岡山県　岡山市消防局

事例類型	Ⅳ 他団体との連携　Ⅵ 広報活動
取組期間	令和3年4月から

背　景

当局では火災調査結果を分析し予防広報につなげるという循環を意識した広報を実施している。その広報ツールの一つとして、当局が令和元年度に作成した「防火カードゲーム」を活用している。防火カードゲームとは、管内の住宅火災で多い発火源、経過、着火物、出火箇所、初期消火を絵で表したカード3～5種類で構成されており、カードを並べ替えることにより火災発生から消火までのストーリーを学べるものである。（図1 防火カードゲーム）この防火カードゲームを更に活用していくため、幼児教育関係学科を有する大学と協力して、幼児向け防火カードゲームとしてマニュアルを作成した。そして消防職員により大学等で防火カードゲームの遊び方を含む防火に関する授業を継続して実施している。

図1 防火カードゲーム

内　容

①幼児向け防火カードゲームのマニュアルを作成

令和3年度に岡山市と学校法人中国学園で火災予防を目的とした連携に関する協定を締結し、防火カードゲームを幼児向けに遊べるように、中国学園中国短期大学保育学科の学生と合同で幼児向け遊び方マニュアルを作成した。（図2 遊び方マニュアル）

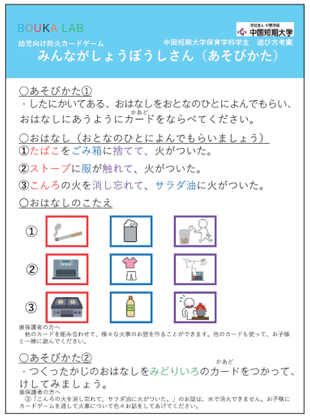

図2 遊び方マニュアル

②大学・短期大学で防火に関する授業を実施

防火カードゲームをさらに広めるため、令和4年度から岡山市と包括連携協定を締結している幼児教育関係学科を有する大学等の学生に対し防火カードゲームの遊び方を含めた防火に関する授業を実施した。また、防火カードゲームは当局管内の各幼稚園、保育園、こども園にも紹介し、配布している。

③学生による予防広報

授業で防火知識や防火カードゲームをマスターした学生の実践の場として、希望者には消防の実施する予防広報にボランティアとして参加してもらえるよう大学側と調整した。学生達は実際に未就学児や小学生達が来場するようなイベント、自治会等で開催する防災イベントのブース、幼年消防クラブでの広報など、多岐にわたって参加し広報を実施した。

④機能別団員

当局では令和6年度から広報に特化した学生団員が活動できる「機能別団員制度」を開始した。令和6年度からは授業の中で機能別団員についての紹介、説明も実施した。

成　果

①直接的効果

防火カードゲームの遊び方を含む防火に関する授業は、令和4年度から令和6年度まで年間4～5大学・短期大学で合計821人に対し実施した。（図3 授業の様子）学生からは「就職後は子供たちに防火カードを使いたい。」、「子供たちにも今日学んだことを教えていこうと思った。」といった感想があった。（図4 アンケート）消防職員が学生に対し直接授業を実施することにより学生自身の防火意識の向上が見られた。

図3 授業の様子

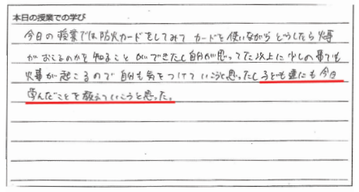

図4 アンケート

②間接的効果

イベントなどでの予防広報は令和4年度から令和6年度までの3年間で計23回のイベントに6大学・短期大学から128人の学生がボランティアとして参加した。実施内容は防火カードゲームをメインとしながら、住宅用火災警報器の広報や住宅火災に関するパンフレットの説明など授業で学んだことを多岐にわたり実施した。学生自身が実践をとおして火災予防について普及活動をすることでさらに知識が定着することが期待できる。参加した学生からは「授業で習ったカードゲームを実際に使えた。」、「子供たちとのカードゲームが楽しかった。」といった感想があった。（図5 ボランティアの様子）

また、学生同士のつながりで当授業を受けていない他の学部や学科の学生と一緒に参加する例も多く見られた。

図5 ボランティアの様子

③拡がり

一部の大学、短期大学ではこども園等での実習の機会に学生主体となって防火カードゲームを実施した。消防職員が携わらなくても学生が子供たちに防火教育を実践できることがわかった。

また、防火に関する授業やボランティアを経験することにより防火の普及に興味を抱いた学生も見られ、中には機能別団員へ入団を希望する学生もいた。ボランティアを経験し機能別団員に入団した学生は13人である。

防火に関する授業や実習、消防職員との広報活動をとおして、学生の防火意識の向上や保育者としての防火の知識を習得するなど本来の目的のほか、消防団員や消防職員の仕事に対する理解、関心が深まるなどの効果があることがわかった。

特記事項

防火カードゲームは第4回予防業務優良事例表彰『予防広報までの「循環」を意識した火災調査の分析事例』として紹介した予防広報ツールである。今回の事例はこの取組を継続、発展させたものである。

防火教育を受けた学生には、卒業、就職後も消防のステークホルダーとして子供たちに対して主体的に防火教育を実施していくことを期待している。

今後も、大学等での授業を継続しブラッシュアップしていくとともに、各園での使用実績やアンケートなどを行い効果の検証を継続していく。また、保育者だけではなく小中学校や放課後児童支援員など各教育機関へも展開し日常に防火を落とし込めるようにしていきたい。（図6イメージ）

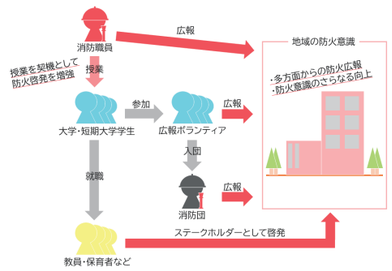

図6 イメージ

選考委員のコメント

防火カードゲームの遊び方を含む防火に関する授業を令和4年度からの3年間で年間4～5大学・短期大学で将来の保育者となる学生合計821人に対して実施し、また同期間中に計23回のイベントでの防火広報に6大学・短期大学から128人の学生がボランティアとして参加するという成果につなげている。